

新技術・情報名	佐賀県の認定種雄牛「勝二」号産子の生時体重に母牛の系統による影響はない				
[要約] 佐賀県畜産試験場で生まれた「勝二」号産子について生時体重を調査した結果、母牛の系統による影響は認められなかった。					
畜産試験場・大家畜部・大家畜研究担当			連絡先	0954-45-2030 chikusanshiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	畜産専門部会	専門	飼育管理	対象	肉用牛

[背景・ねらい]

種雄牛「勝二」号は平成 25 年に佐賀県の認定種雄牛として選抜された。「勝二」号は増体型種雄牛として、その産子は去勢牛・雌牛ともに枝肉重量・脂肪交雑が県平均を上回っている。県内の繁殖農家に「勝二」号の利用を推進している中で、「勝二」号産子が過大になるとの話も聞かれている。

そこで、当場の雌牛と「勝二」号を掛け合わせたときに生まれてくる子牛の生時体重及び、生時体重が 40.0 kg を超えた子牛の産出数に系統間で差が出るか調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 今回用いた子牛の生時体重の平均は 35.3 kg である(表 1)。
2. 子牛の生時体重に母牛系統による影響は見られない(表 2)。
3. 生時体重 40.0 kg を超えた子牛の産出数はどの母牛系統も同程度である(表 3)。

[成果の活用面・留意点]

1. H24.4~H28.1 までの分娩牛 60 頭を調査している。
2. 「勝二」号を用いた交配を行う際に活用できる。
3. 母牛の祖父系統との関連性は調査していない。
4. 調査した子牛のうち 16 頭は短期肥育試験に供用している。

[具体的データ]

表 1 生時体重に関する基本統計量

	例数	平均±標準誤差 (kg)	最大 (kg)	最小 (kg)
全体	60	35.3±0.7	46.0	22.5

表 2 要因ごとの生時体重

要因	例数	生時体重
性	*	
雄	37	36.2±0.8
雌	23	33.1±1.0
母牛系統	ns	
気高	26	34.8±0.9
田尻	18	34.7±1.1
藤良	16	34.3±1.2
母牛体重	**	

1) 最小二乗平均±標準誤差

2) *:P<0.05 **:P<0.01 ns:有意差なし(以下同様)

3) 母牛体重は分娩2か月前の数値

4) 母牛体重:平均470.2kg、最大618.0kg、最小319.0kg

5) 系統は母牛の種雄牛を元に分類(以下同様)

表 3 生時体重が40.0kgを超えた割合

系統	例数	40.0kg超の割合
気高	26	0.19(5頭)
田尻	18	0.22(4頭)
藤良	16	0.25(4頭)
全体	60	0.22(13頭)

(崎山将太)

[その他]

研究課題名:佐賀牛の低コスト生産を目指した短期肥育技術の確立

予算区分:県単

研究期間:2012年度~2015年度

研究担当者:崎山将太、狩又亮治、横尾直樹、小出繁夫